

2022年度 学校法人修道学園 事業計画
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 学力の向上			
1. 学力向上の取組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。	教務部、学年会	通年
	②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。	教務部、学年会	通年
2. 探究型学力（主体的学び）を目指す授業づくりの促進	③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけ、それを生徒と共に実施する。	協創教育部、学年会	通年
	④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	教務部、学年会	通年
II 進路指導の強化	①「エミット学習」（描く・観る・問う）やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。	教務部 協創教育部	通年
	②探究的な学びを促進する発問の仕方や課題の出し方について研究し実践する。	教務部	通年
	③参加型授業の研究・実践を行う。	教務部	通年
1. 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」の作成とそれに基づく取り組みを充実させていく。	進路指導部 学年会	4月～11月
	②広島修道大学附属校推薦・総合型選抜・学校推薦型選抜対策案を企画・立案し、実施する。	進路指導部	4月～1月
	③「協創スマート予備校」など、進路希望に応じた効果的な補習体制を整える。	進路指導部	通年
	④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	進路指導部	通年
III 自立（自律）心の育成			
1. 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）を合言葉にし、徹底を促す。	生徒指導部 学年会	通年
	②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」（高みを目指す）につながる取り組みを実施する。	生徒指導部 学年会	通年
	③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒指導部	通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。	生徒指導部	通年
	②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒指導部	通年

	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	生徒指導部	通年
IV協創教育の推進			
1. 「4つの力」(探究型学力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。	教務部	通年
2. 「探究科」授業の充実	①地域に密着した身近な課題から生徒が4つの力を意識して解決策を模索し、中高の系統性を鑑みるとともに思考の深化を図る授業に取り組む。	協創教育部	通年
3. 「G C P」(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のG C Pを探究授業の中で取り組む。	協創教育部	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部	通年
5. I C Tを活用した教育の推進	①I C Tを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	協創教育部	通年
V教育力の向上			
1. 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「バディ制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導、助言する。 ②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。研修は、経験年数別、マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	教務部	通年
2. 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	教務部	11月
3. 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	教務部	通年
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
VI生徒募集の充実 1. 戦略的広報活動の実施	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	教務部	7月、2月
	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	5月～11月
	②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。 ③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などにに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部 企画広報部	通年 5月～11月
VII学校組織力の強化 1. 組織体制の充実	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定し、校務運営の円滑化を図る。また、その振り返りを全教員で共有する。	各部	通年
	②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成する。	管理職、教務部	通年
	③スクールポリシー及び「協創の教育2022」を公表し、本校のめざす学校像を内外に発信する。	管理職、教務部	4月
	④昨年度設置した研修主任及び今年度新たに設置する中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育の充実を図る。	教務部	通年
	2. 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を今年度より本格的に運用し、教職員の成長を支援する。	管理職
VIII事務室の機能強化	①今年度から本格導入する「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。 ②教職員の勤務管理を適切に行うとともに、健康の保持増進に努める。 ③収支バランスの改善を図る観点から、2023年度入学生の授業料及び施設・設備資金の在り方について検討する。 ④施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。	事務室	通年